

あいかの香り(あいかのかおり)

登録番号:第9130号

育成者:藤牧秀夫

登録年月日:平成13年7月27日

来歴:「ふじ」の自然交雑実生

登録者:藤牧秀夫(長野県長野市大字
村山147番地)

育成地:長野県長野市大字村山

特性

■栽培特性

樹姿はやや開張性で樹の大きさおよび樹勢は中である。枝梢の太さは細、節間長は中、皮目の大きさは小、多少は多である。結実の早晚性は中で腋花芽の着生も中である。開花期は「ふじ」と同時期かやや早い。花粉は稔性があり、「ふじ」、「つがる」等、主要品種と交雑和合性が高い。「きたろう」、「さやか」とは交雑不和合性である。

育成地での成熟期は10月中・下旬で、「陽光」や「北斗」よりやや遅く、「ふじ」より10日程度早い。早期落果および後期落果は無いし僅かで、心かびの発生も極めて少ない。

■果実の特性

果実の大きさは、若木で400~500gと極めて大きい。樹勢が落ち着けば300~400gになると予想される。果実の形は長円錐形で王冠が認められる。果実の地色は黄緑色で、濃赤色に着色し、縞は明瞭である。果肉の色は黄色で、果肉の褐色化はやや弱、果肉の硬さおよびきめはともに中である。蜜の多少は多、香気は中、果汁の多少は多である。糖度は14~15%、酸は0.3~0.4%で甘味が強く、食味は良い。果肉は粉質化しにくく、室温で2週間程度、冷蔵で2か月程度は品質が保持できる。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

慣行防除のもとでの試作の範囲では、特に目立った病虫害の発生が認められていない。主要病害虫に対する抵抗性は明らかになっていないが、「ふじ」と同様な防除体系で実用上問題はないと考えられる。なお、黒星病に関しては罹病性と考えられ、EBI剤の散布は不可欠である。栽培技術に関して十分な検討がなされていないが、当面は「ふじ」の栽培技術に準ずるのが良いと考えられる。ただし、大玉品種であるので着果過多にならないよう注意が必要である。

■地域適応性

育成地のように温暖な地域では収穫期が10月中・下旬で、「ふじ」の有袋栽培の収穫期とほぼ同時期となり、市場での競合が予想される。「ふじ」の有袋栽培の果実と比べると、糖度が高いこと、蜜入りが安定して多いことは販売上有利と考えられる。また、無袋栽培が可能なのも栽培上は魅力である。寒冷地では収穫期が11月上旬となるのが、温暖地産の無袋栽培の「ふじ」と競合するため販売環境が厳しい。また、収穫作業が「ふじ」と重なるため、栽培上も不都合ことが多い。このようなことから、市場出荷を目標とした場合は、リンゴ栽培地域の中では比較的温暖な地域に適した品種と考えられる。観光農園や直接販売などの経営では、中生種と「ふじ」をつなぐ品種、大玉で蜜入りが多く、甘い品種として、地域を問わず注目される。

(小松宏光)